

# 英語の親和性向上を考える

産業技術課 福富 浩行

## 1はじめに

コミュニケーション能力を持ち活用ができるることは、社会での生活、就職・就業での優位性を高められると考えられる。英語もそのツールの一つで、日本で必要性の考え方から、教育が盛んに行われてきた。しかし当校においても、英語に対して抵抗感を持っている学生、資格所持者や聴覚能力得意の学生でも、英語を活かすことが苦手な学生が存在する。

コミュニケーションツールを効果的に導入・浸透・活用するためには親和性の向上が重要であると考えられ、その関係での学習支援が研究の目的である。

そのため、現状を把握した上で、一人一人の能力向上を目指し、今後の本校における英語の親和性向上に関する研究を実施する。

## 2研究の概要

次の確認、提案等を実施する。

学生の英語能力、英語に対する考え方について、アンケートで全学科の調査・確認の実施、そのデータにより思考や問題点を把握して、親和性向上方法の検討と提案を行う。

英語教育の浸透と活用をより進めることができるよう親和性の向上について今後の方針性、工夫方法等についての検討と提案を行う。

## 3現況と調査

### 3.1 本校の英語教育の現況

現在の本校の英語教育は、1年次1年間、週1回1コマ2校時を1科40名2分割し、日・米国人講師による前半・後半1校時ずつの授業を行っている。

日本人講師はリスニング、文法、単語等の学習。米国人講師は英会話、基礎的なプレゼンテーション指導を行っている。ハロウィン等のグループ英語劇イベント授業も行っている。

### 3.2 英語についての学生アンケート調査の実施

本校学生に対して英語についてのアンケートを実施した。(1年生全学科4月実施)

内容は「必要性」、「海外旅行・勤務希望」、「技術英語学習」、「好き／嫌い」「得意／苦手」「学習希望」を「聞く」「話す」「読む」「書く」「単語」「会話」等、各3段階評価、全32項目で確認を行った。

その結果、以下のような傾向となった、  
・「日本語が好き」は71%。

- ・「英語が好き」は27%。
- ・「英語の学習をしたい」は53%。
- ・「英語の勉強は必要」は84%。
- ・「生活の中で英語を使う」29%。
- ・「英語が使えるようになりたい」は75%。
- ・「海外旅行をしたい」は57%。
- ・「海外で働きたい」は20%。
- ・「仕事で英語を使いたい」は25%。
- ・「海外の人と交流したい」は51%。
- ・「英語で歌を歌いたい」は45%。
- ・「字幕で外国映画を見る」は62%。
- ・「英語で発表を行いたい」は8%。
- ・「技術関係の英語の勉強したい」は41%。

・6項目の「好き」「得意」「学習希望」に関しては

	聞く	話す	読む	書く	単語	会話
好き	47%	20%	27%	25%	26%	24%
得意	9%	2%	11%	8%	12%	2%
学習希望	61%	57%	60%	57%	57%	55%

以上のアンケート結果により、

- ・「日本語」より「英語」はかなり人気が低かった。
- ・「発表を行いたい」を含め「話す」関係は全体的に低い。
- ・「海外旅行・交流」は約半数、「海外勤務」は低い。
- ・全体的に「苦手」と思っている人は多く、「好き」も低いが「学習希望」「必要性」は高い。

また自由記入のコメントでは、多種の意見があり、学習意欲のある意見も見受けられたが、

- ・(苦手なので)ゆっくり学習希望
- ・中学・高校での英語教育への不満
- ・話したくない、スピーチ苦手

の意見も複数見受けられた。

全体的に「話す」能力の必要性が感じられた。

以上の結果から以下の提案を行った。

## 4 英語の親和性向上に関する提案

英語に関しては、殆どの学生にとって日常生活で使用されず、話す機会も殆ど無い状況である。

しかし、仕事や生活の変化により、突然必要な機会が来ることも考えられる。そのために必要な外国語のコミュニケーション能力を身に付けられるための英語親和性向上の提案を以下のとおり行った。

これらの提案を行うために、現英語授業の参加、通学時間・休憩時間等に学生との会話をを行い、英語環境

勤務の卒業生等に現状を尋ねる、外部の英語講座・サークルへの参加、外国人クラブ等への訪問等を行った。

#### 4.1 必要な事をまず母国語表現できるようにする

「日本語なら話せるけど英語では話せない」との声がよく聞かれるが、説明を求めて日本語でも話せない、書けない、説明が苦手な学生も見受けられる。

物事を母国語でしっかりと論理的に表現する能力が、外国語表現における親和性の基礎になると考えられる。まず、日本語でしっかりと文章を作つてから、英文に翻訳する。翻訳が苦手なら後述の自動翻訳も活用する。

また、日本と英語圏では挨拶や会釈の仕方も異なるが、学生に対して、英語的挨拶を日本語で行い、発声時の前か後にその英文を頭に浮かべる学習法の試行も行っている。

#### 4.2 インプット暗記学習からアウトプット自己表現学習へ、させられているから自発的へ

日本の従来の英語学習は、文法や単語、例文を教師が次々にインプットし、暗記させるのが主流であり、アウトプットがあまりにも少なすぎたため、アンケート結果の如く、話す能力が低くなっている。

英語学習においてはアウトプットが重要で、話さず自己表現をしないと、話す能力が身に付かない、最低限、

- ・一日の生活に必要な基本的な表現
- を身に付けた上、以下の紹介文を準備しておく
- ・基本的な自己紹介
- ・自分の学習・仕事内容の簡単な紹介
- 次の項目も整理し、準備しておく
- ・自分の趣味や興味のある分野の紹介
- 更にできれば以下も、準備しておく
- ・自国の興味のある文化の紹介
- ・自分の縁のある街、好きな場所の紹介
- ・好きな食物・料理の紹介
- ・好きな人物・著名人等の紹介
- ・興味のあるニュース・社会動向の確認
- ・基本的な道案内方法（ジェスチャーも加える）

以上のとおり、予め自分自身で話す準備を行い、会話中、言葉が詰まる前に適度に相手に振ることが親和性向上につながる。「話すこと」は、「聞く」「読む」「書く」「単語」「会話」の一番の基本であり、言語学習において正確に話すことができれば聞くことができると言われている。させられている学習は身に付きにくい、自発的に学習する切っ掛けをつかむことが大切である。

#### 4.3 自動翻訳ツールの活用

わからないことがあった時、すぐに英文等の確認ができる。スマートフォンやタブレットなら手軽に対応が可能である。入力文の翻訳がより正確に行われるようにする入力方法と、翻訳後の修正が肝心である。

単語力を向上させたいのであれば、撮影入力を使わずに、指を使ってアルファベットで単語や英文を打ち込めば自然にスペルを身体で覚えることが可能である。

特にお薦めは、自作英文を入力し和文翻訳と修正を繰り返して文の作成を行うこと。これは英作文のみならず発音確認もできるため、話す学習にも活用可能で、有用な親和性向上のための学習ツールとなる。

#### 4.4 映画の活用

英語の映画に関しては、日本語字幕つき洋画を鑑賞されている方が大多数であるが、ここでは、

- ・日本映画に英文字幕付き（特に日常生活映画）を推薦する。

日本語字幕付き洋画では、英台詞と日本語訳のギャップで頭の中が混乱してしまいがちであるが、日本映画に英文字幕付きの場合、日本語がしっかりと理解できるので、比較的楽に字幕英文を読むことが可能で、英語表現の学習に利用しやすいと考えられる。

### 5 英語以外の授業での英語親和性向上導入

Microsoft Office に関する授業において、英語親和性向上のための指導を行った。

#### 5.1 英文ワードプロセッサ学習

Microsoft Office Word は元々英文（米国語）事務処理用に作成されたもので、日本文処理の方が後付け機能である。授業で本来の英文処理部分の基本設定と英文処理機能の紹介を行った。校閲のスペルチェック機能と文書校正の方法についても実例を使った説明と、日・英文の特徴と処理の違いについての説明も行った。

また、単語・スペルと英文に対しての親和性向上のための英文入力実習も行った。専門分野に関する同一内容の日・英文入力、更に数種類の英文から学生自身が文書を選択し、入力・校閲を行う実習も実施した。

### 6 今後の取り組み

今回の調査・研究では、コミュニケーション能力向上と英語の親和性向上の実現を目指した。結果として将来の生活・交流、企業ニーズ、就職、配転、転職等での対応のできるように、今後も工夫と試行を繰り返していくと考えている。

また、各学科、個人の特性に合わせた指導、専門性についても引き続き、検討をしていく。

### 7 参考文献

- (1) 最強の英語学習法 グローバル人材を育てる実践的英語教育  
勝又美智雄、(2017), IBCパブリッシング
- (2) 純ジャパンーズの迷わない英語勉強法  
上乃久子、(2017), 小学館